

静岡分苑だより

2022 秋号



静岡分苑秋季大祭（2022年10月9日撮影）

みちとせ
三千年の神の経綸の御光

あまねく耀ふときは来にけり

出口王仁三郎



静岡分苑 秋季大祭報告

令和四年十月九日、秋季大祭並びに宣信徒合同慰霊祭が執行されました。分苑内で育てた農作物や信徒の方々の献納された神饌物を含めて献饌させていただきました。厳かで清々しい祭典となりました。

奉納行事として、たかね会四名による八雲琴「振放曲（ふりさけふり）」の奉納がありました。

またこの度、大本本部からは前田茂太特派宣伝使、山本哲神苑部長をお招きし、直会の後に講話の時間を設けさせていただきました。



前田特派からは、今年度の教主さまのご親教の状況についての報告があり、東海教区内では、三月に伊勢神宮正式参拝、香良洲神社祭典へのご臨席、十月十五・十六日には熱田神宮正式参拝、三河本苑へのご親教が予定されているとのことでした。静岡分苑については、昨年三月に教主さまよりこのはなざくらをご下付いただき、今年はお茶笏を二つとお茶盃をご下付いただくなど、非常に気にかけてくださっているとのことでした。私たち静岡分苑信徒としては、そうした教主さまのお気持ちにお応えするべく、ご親教がかなうのであれば、感謝の気持ちを込めてお迎えさせていただきたいと思っております。

富士山は此花咲耶姫の御神体山と言われています。その富士山の見える神苑にこのはなざくらが植樹されている日本で唯一の場所である自覚と責任をもってご神業に奉仕させていただきましよう。（井村浩仁朗 文）

【各部会へお知らせ】

今年の事業報告、決算報告、来年度事業計画、予算申請を12月の分苑月次祭までに秋田事務局長に提出してください。よろしくお願ひします。

【編集後記】

10月16日に教主さまは、三河本苑をご親教になられ、「大本三河本苑（教主様御染筆）」の表札序幕式が行われました。私たちの静岡分苑にも、木の表札に御染筆お願ひしたいと思ひました。

令和4年11月13日

発行者 大本静岡分苑

〒421-3306

富士市中之郷小池下2353-1

谷田 新樹

教主さま ご親教について

来年の春季大祭への教主さまご親教を申請いたしました。静岡主会から静岡分苑移行十周年と、このはなざくら植樹記念祭典となります。

まだ申請中の段階ではありますが、富士山とこのはなざくらが一緒に拝める静岡分苑の皆さままでお迎えしましょう。

教主さまの瑞生大祭のご挨拶の中で、「私たちは今、体主霊従の身霊から霊主体従の身霊へと少しずつ移行できるかどうかの分岐点に立たされているのではないかと存じます。(中略)ただ、何もしないで立ち止まっていると、その先にある光明の世界は見えてきません。私たち一人一人が閉ざされた心の岩戸を開いて、愛善の種を蒔くことが大切です。種を蒔くということは、困難を乗り越え、明るい希望に満ちた世界へ行くための行動をすることです。たとえどんなに小さいことであっても、一人の勇氣あるお行いが今の世の中を変えていきます。」

一人では困難なときは、皆で力を合わせて協力すれば必ず良い方向に進んでゆくことができます」とお言葉を頂きました。また「老いも若きも善き言葉、善き行い、善き型を、どんどん発信してまいりますよう」ともおっしゃっています。今何ができるのか、私たち自身ができることを発信していきましょう。

(谷田新樹 文)

静岡分苑このはなざくらについて

山本神苑部長 講話より

現在静岡分苑で育っているこのはなざくらは、昨年春、トラックに乗せて本部から高速道路を走ってやって来ました。富士山の水はけの良い黒墨土に入れ替えをして準備した現地に移植しました。

昨年と今年の猛暑を乗り越えましたが、人間に例えると大手術をして体力を回復し、新たな環境に順応している時なので、まだ時期が来ても葉を落とす体力がなく、いつまでも葉が残っている状態です。

【ポイント】

- ・このはなざくらは、根が浅く横に伸びてゆきます。根がどこにあるのか分からないので、歩いて根を踏むと傷ついたり細かい根を切ってしまうです。
- ・草が茂っていたとしても、草引きの際に根を踏んだり、草を引いて近くの細根を傷つける事を最小限にとどめる為に、年2回担当の者が草刈り機で刈ります(草刈り機の歯も金属の歯は使用せず、細かいロープの特殊な歯を使用します)。

以上の理由から、柵の中に入らないようお願いいたします。これからの管理も、山本神苑部長に指導していただきます。



道の友垣



弥仙山 金峰神社にて

Saluton!

こんにちは

教主様のお許しをいただき大本に入信させていただいてから、本年で四年目となります。大道場修行で学んだことを体験するため、四大大祭をはじめ大本の行事に積極的に

に参加させていただいております。

「大本教法」にお示しされる両聖地は勿論のこと、霊場にも妻とともに巡らせていただいております。最初に訪れた霊場は、国見山から杵島、冠島の遥拝祭でした。そこで大本の器の大きさに大変驚きました。入信数か月の私を地方機関代表として、玉串奉奠にご指名していただいたことでした。当時の鈴木本部長の基本動作を手本に焼き付け、何とかやり遂げることができた喜びは今でも忘れることはできません。続いて、炎天下の神島の遥拝祭、高熊山、瑞泉苑と巡らせていただきました。

鈴木 親昌さん

(すずき ちかまさん)

安国分所所属

平成 31 年 4 月 30 日入信

しばらくは、新型コロナ禍の影響で本部行事への参加を控えさせておりましたが、本年は弥仙山を皮切りに、鉢伏山の登拝もさせていただきました。そして、大本竹田別院開設九十年記念大祭に合わせ企画していただいた「雲海に浮かぶ竹田城跡」を、立雲峡の展望台から眺めることができました。

大本にはご神縁の霊地の中に「伏(臥)」という文字のある山が三カ所あるそうです。その第一は「桶伏山(おけふせやま)」「本宮山の別称)、第二は「鉢伏山(はちぶせやま)」、そして第三といえは「虎臥山(とらふすやま)」「竹田城跡のある山」とお示しされております。

いずれの山も、時節が到来するまで長く伏せられ、秘められていた霊山です。

本年は開教百三十年、長生殿完成三十年の佳節の年です。ご神体山「本宮山」特別参拝のお許しをいただき、謹んでお参りさせていただきます。

また、「みづほ A I Z E N 発酵堆肥」の発売が開始され、我が家でも堆肥を二袋購入させていただき、プランターでの家庭菜園を妻と取り組んでいるところです。栽培した野菜の生育写真報告、収穫に心を弾ませております。お土のご恩とお恵みに感謝申し上げる次第です。

末筆ではありますが、分苑信徒のみなさまの心を一つにして、富士登拝に想うこれまで引き継がれてきた「言心行一致」の実践をともに続けてまいります。今後とも私ともどもよろしくお願い申し上げます。



鉢伏山 石の宮にて